



有料老人ホーム共生の里

数ヶ月前までは、他の利用者と一緒に食事をしていた元気な人が、たった数ヶ月でADL（日常生活動作）が急激に低下し、食事もほとんど取れない看取りの状態になりました。介護職員、看護職員、管理者が一丸となり、出来るだけのことはしようと決めました。直接介護にたずさわっていない調理担当者が、一生懸命、手を握って話しかけていました。チームワークの素晴らしさに感動しました。



共生の里訪問看護ステーション

利用者一人ひとりのそれぞれの生活に触れる中で、生活環境やこれまでの経験などがその人の人生を形づくり、個性や価値観となっていることを強く感じています。そのため、同じ支援内容であっても、受け取り方や望んでいる関わり方は利用者によって異なり、こちらが良かれと思ったことが裏目に出ることもあると学びました。だからこそ、画一的な看護ではなく、その人らしさを尊重した関わりが必要だと思います。まずは相手の生活環境や性格などを理解しようとする姿勢こそが訪問看護の基盤であると感じています。

鶴橋からの通信

高市首相の台湾有事をめぐる発言をきっかけに、中国政府が日本への渡航自粛を呼びかけています。中国人客相手の店ばかりだった黒門市場では閑古鳥が鳴いていると聞きますが、もともと鶴橋では中国からの客は多くありません。むしろ最近は大阪のディープな食文化を楽しみたいと欧米の客が増えています。ホルモンや串カツ、お好み焼きのB級グルメが受けているのだとか。コロナの時もそうでしたが、飲食業は世情に左右される商売です。